

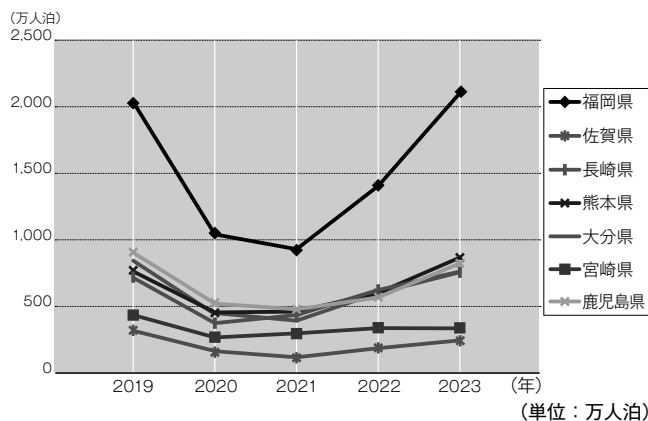
## IV-2-4 九州

国際的なスポーツ大会の開催  
高価格帯ホテルの開業等ホテル投資が活発に  
九州最大級の「SAGAアリーナ」が開業

### (1) 都道府県レベルの旅行者動向

観光庁「宿泊旅行統計調査」によると2023年1月から12月の九州各県の延べ宿泊者数は、九州全体では5,870万人泊となり、対前年比32.4%増となった(図IV-2-4-1)。九州内すべての県で延べ宿泊者数は増加しており、増加率の多い順では、福岡県(51.0%増)、鹿児島県(33.9%増)、熊本県(33.3%増)、佐賀県(21.8%増)、大分県(21.0%増)、長崎県(19.7%増)、宮崎県(2.3%増)となった。九州全体では、2019年の延べ宿泊者数5,869万人と同程度に回復したが、県別に見ると状況は異なる。2019年比まで回復したのは、福岡県(3.4%増)、長崎県(4.7%増)、熊本県(10.0%増)で、回復できていないのは、佐賀県(13.3%減)、大分県(3.5%減)、宮崎県(21.8%減)、鹿児島県(2.6%減)となった。

図IV-2-4-1 延べ宿泊者数の推移(九州)



資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

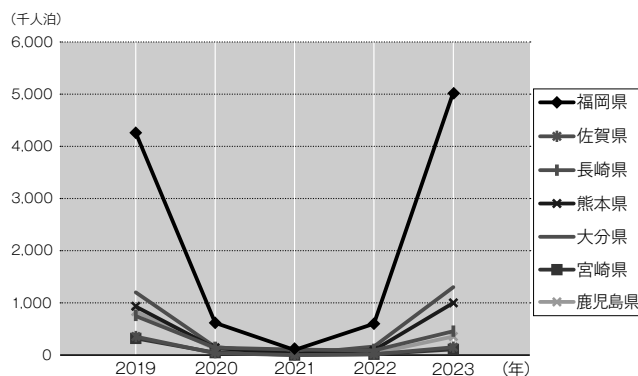
外国人延べ宿泊者数は、九州全体では844.3万人泊で、対前年比701.4%増となった(図IV-2-4-2)。九州内すべての県で延べ宿泊者数は増加しており、増加率の多い順では、熊本県(898.9%増)、鹿児島県(849.7%増)、福岡県(730.7%増)、大分県(670.5%増)、佐賀県(661.8%増)、宮崎県(397.0%増)、長崎県(386.2%増)となった。

2023年4月29日、日本に入国する場合に必要であった有効なワクチン証明書または出国前検査証明書の提示が不要となり、九州内の航空路線の再開や就航が相次いだ。例えば、福

岡空港では4月にハワイ線(ハワイアン航空)が再開、九州佐賀国際空港では9月に仁川線(ティーウェイ航空)が再開、阿蘇くまもと空港では9月に台北線(チャイナエアライン)が就航、大分空港では6月にソウル線(チェジュ航空)が就航、宮崎空港では9月に仁川線(アジアナ航空)が再開、鹿児島空港では6月に香港線(香港エクスプレス)が再開した。

上記のように国際路線の再開や就航が進み、九州全体の訪日外国人延べ宿泊者数はほぼ回復した。しかし、佐賀県、長崎県、宮崎県、鹿児島県においては、2019年度の水準まではまだ回復していない状況である。

図IV-2-4-2 外国人延べ宿泊者数の推移(九州)



(単位：千人泊)

都道府県名	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
福岡県	4,262	623	104	606	5,038
佐賀県	359	42	7	20	156
長崎県	753	148	112	95	463
熊本県	935	140	36	100	1,001
大分県	1,207	162	25	170	1,307
宮崎県	326	53	10	23	116
鹿児島県	840	121	16	38	362

資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

### (2) 観光地の主な動向

#### ① 地方・都道府県レベル

##### ● JR九州グループによる手ぶらサービスの開始

JR九州グループは、2021年より新幹線や特急列車を活用して、出発駅に持ち込んだ荷物を到着駅で受け取れる即日輸送サービス「列車荷物輸送サービス」を実施している。2023年9月には、この取り組みを拡大し、出発駅で預かった手荷物を宿泊地のホテル・旅館まで当日中に配送する「当日ホテル配送サービス」を開始した。まずは、実証として博多駅から大分県由布院・別府方面に向かう旅行者を対象として実施している。旅行者は、8時30分から10時に受付を行い、当日18時までに宿泊施設で手荷物を受け取る。また、JR九州商事は、同年8月より博多駅中央改札で手荷物の一時的預かりサービスを開始した。これらの取り組みにより、旅行者に手ぶらで快適な旅行環境を提供するとともに、車内の混雑緩和を図る。

### ●九州観光機構が第2種旅行業に登録

一般社団法人九州観光機構(以下、九州観光機構)は、九州各地のコンテンツや着地型旅行商品の流通環境の整備や販売を促進していくため、2023年10月、第2種旅行業に登録。着地型旅行商品販売プラットフォーム「九州わくわく体験予約」で、サイクリング旅行商品「ディスカバー九州」等の商品の販売を行った。また、2023年に九州観光機構のBtoC向け英語サイト「Visit Kyushu」内に体験予約ページを新設した。

### ●「マイナビ ツール・ド・九州2023」の開催

(福岡県、熊本県、大分県)

2023年10月6日から9日、「マイナビ ツール・ド・九州2023」が開催された。「ツール・ド・九州」は、九州の経済団体トップと各県知事で構成される九州地域戦略会議において、ラグビーワールドカップのレガシーの持続的継承や九州でのサイクルツーリズムの推進、近年九州を襲った自然災害からの復興を象徴するイベントとして開催が決定されたものである。「ツール・ド・九州」は、国際自転車競技連合(UCI)の公認レースとして認定され、UCIに登録された国内外の有力チームのみが参加可能な、UCIコンチネンタルサーキットアジアツアーのクラス1として2023年に初めて開催され18チームが参加した。10月6日にエキシビジョンマッチとして、福岡県北九州市で「小倉城クリテリウム」が開催され、7日に福岡県内、8日に熊本県内、9日に大分県内でロードレースが行われた。本大会の開催に合わせて、九州内にサイクルツーリズムの推進を図っていくことを目的として、サイクリング旅行商品「ディスカバー九州」(2024年度より「サイクリングアイランド九州」に名称変更)の造成及び販売に取り組んだ(事務局:九州観光機構)。「ディスカバー九州」では、自転車初心者から中級者以上を対象としたガイド付き日帰りコースや宿泊を伴うロングコース等46コースを販売し、販売実績は、国内客・訪日外国人客合わせて490名となった。

### ●「FINA 世界水泳選手権2023福岡大会」の開催(福岡県)

2023年7月14日から30日まで第20回「FINA 世界水泳選手権2023福岡大会」(開催地:福岡市)と「世界マスターズ水泳選手権九州大会」(開催地:福岡市、熊本市、鹿児島市。以下、マスターズ)が開催された。開催期間中、世界各国及び国内から訪れる来訪客に対して九州観光の魅力を発信する「九州観光広場『WELCOME Back to FUKUOKA』」を博多駅前広場に設置した。PRブースでは、マスターズが開催される3都市周遊や九州全体の観光情報や物産の紹介、福岡市の伝統文化の紹介等を行った。

### ●「SAGA サンライズパーク」の開業(佐賀県)

佐賀県佐賀市に、2023年5月「SAGA サンライズパーク」がオープンした。これは、佐賀県で2024年に開催される「SAGA2024」(国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会)の会場整備として、既存施設の再整備やアリーナ整備を行ったもので、スポーツをする環境だけでなく「観る」スポーツに対応した施設を整備することでスポーツツーリズムを推進す

る環境を整えたものである。観客席約8,400席で九州最大級の多目的アリーナ施設「SAGA アリーナ」は、バレーボールやバスケットボール等のプロスポーツの試合だけでなく、コンサートやイベント会場としても活用される。

「SAGA アリーナ」でのイベント時、イベントの一般来場者は「SAGA アリーナ」、「SAGA サンライズパーク」の駐車場を利用することができないため、佐賀県は路線バスや佐賀駅周辺の駐車場等、既存の交通インフラ等の活用を推奨するパークアンドライド、パークアンドウォークの取り組みを行っている。パークアンドライドは事前予約が必要であり、利用者は提携施設の「イオンモール佐賀大和」の指定された駐車エリアに駐車、路線バスを使って「SAGA アリーナ」まで移動する。また、佐賀市は、2023年12月、2024年1月に「街なか指定駐車場無料 Day !」として「SAGA アリーナ」で開催されるスポーツの試合やイベントにあわせて指定駐車場を12時間無料で利用できる取り組みを実証的に実施した。街なかでの消費や回遊性向上を図るため、駐車場利用者にはアンケート回答の特典として、協力店舗で使用できるクーポンを配布した。この取り組みは2024年度も継続して行われる。

### ●九州・長崎特定複合観光施設区域整備計画の終結(長崎県)

長崎県は2022年4月、観光庁に「九州・長崎特定複合観光施設区域整備計画」(九州・長崎IR)の認定申請を行っていたが、2023年12月に不認定となった。『九州・長崎特定複合観光施設区域整備計画』について(報告)』(長崎県、2024年6月発表)によると、審査結果の理由として「資金調達の実現性」及び「IR事業の適切かつ継続的な実施」の大きくふたつの項目について要求基準を満たさないと判断されたと記載されている。2024年3月、長崎県知事は、行政不服審査法に基づく審査請求及び行政事件訴訟法に基づく処分取消の訴えを行わないこととし、九州・長崎IRは事実上終結した。

### ●阿蘇くまもと空港新旅客ターミナルの供用開始(熊本県)

2023年3月23日に、阿蘇くまもと空港の新旅客ターミナルの供用を開始した。新ターミナルビルは、延床面積3万7,800㎡で旧ターミナルビルの1.4倍となり、国内線と国際線が一体化したことで利便性が高まった。国内で初めて、保安検査後の待合エリアに滞在型ゲートラウンジが設けられ、搭乗までの間に買い物や食事等を楽しめる。また、旅客利便の向上として、自動チェックイン端末、自動バゲージドロップ、手荷物からパソコン等を取り出すことなく保安検査ができる装置の導入等によりチェックインや手荷物預け入れにかかる時間を短縮。保安検査では、一度に複数人が検査レーンを利用できるスマートレーンの導入等により利便性を高めた。また、2024年2月に、世界最大の半導体受託生産企業であるTSMCが熊本県菊陽町に工場を開設し、今後ビジネス客の増加が見込まれることから、テレワークブースやコワーキングスペース、会議室等を整備した。2期エリアは2024年秋に開業する予定で、空港利用者だけでなく近隣住民の利用を期待し、商業棟エリア、広場等の整備を進めている。

阿蘇くまもと空港までのアクセスは、JR九州の豊肥本線肥

表IV-2-4-1 九州内のフェアフィールド・バイ・マリオット一覧

所在地	隣接する道の駅	名称	客室数	開業時期	
福岡県	うきは市	うきは	フェアフィールド・バイ・マリオット・福岡うきは	51	2023年8月31日
佐賀県	嬉野市	うれしの まるく	フェアフィールド・バイ・マリオット・佐賀嬉野温泉	84	2023年7月12日
熊本県	阿蘇市	阿蘇	フェアフィールド・バイ・マリオット・熊本阿蘇	93	2023年11月6日
鹿児島県	垂水市	たるみずはまびら	フェアフィールド・バイ・マリオット・鹿児島たるみず桜島	95	2023年4月12日

資料:積水ハウス(株)のウェブサイトをもとに筆者作成

後大津駅から空港までをつなぐ空港アクセス鉄道を整備する。現在、熊本市から空港までの移動にはバスで約60～80分かかかるが、空港アクセス鉄道の整備により、所要時間約40分に短縮される。また、バスから鉄道に移行することで大量輸送が可能となる。鉄道の運行と維持管理を分離する上下分離方式を採用し、維持管理部分は県が設立する第3セクターが運営、運行はJR九州が行う。事業規模は約410億円で、2034年頃に完成する予定である。

## ②広域・市区町村レベル

### ●九州各地で高価格帯ホテルの開業やホテル投資が続く

福岡県福岡市に、2023年6月、「ザ・リッツ・カールトン福岡」が開業した。「ザ・リッツ・カールトン」ブランドのホテルとしては国内6軒目で、九州では初進出となる。「ザ・リッツ・カールトン福岡」は、福岡市の中心市街地にあった大名小学校跡地に再開発された「福岡大名ガーデンシティ」の9フロア(1階ホテルエントランス、3階バンケット会場、上層18階～23階ゲストルーム・スイートルーム、24階クラブラウンジ・スパ)を専有している。

福岡県うきは市では、2023年8月に「フェアフィールド・バイ・マリオット・福岡うきは」が開業した。これは、積水ハウスとマリオットによる地方創生事業「Trip Base 道の駅プロジェクト」の一環として、地域の知られざる魅力をわたり歩く旅の拠点となる宿泊特化型ホテル「フェアフィールド・バイ・マリオット」を展開するもので、2023年九州では上記の地域で開業した(表IV-2-4-1)。

佐賀県嬉野市では、2022年9月に開業した西九州新幹線の影響によりホテル投資が続いた。2023年5月、温泉宿「ホテル桜 嬉野」が、客室や客単価を変えずに、ロビーや大浴場をモダンな空間に大規模リニューアルし、オープンした。10月にはJR九州ホテルマネジメントによる「嬉野八十八(やどや)」が開業した。全36室(母屋棟24室、離れ棟12室)で、全客室に源泉かけ流しの温泉を設置した。離れ棟は、約80㎡以上の全室スイートルームでプライベートサウナ付きの客室やペットと宿泊できる客室等がある。施設内には、茶の生産者が茶師としてお点前を披露するティーセレモニールームや、茶アロマのロウリュウサウナ、お茶を使ったカクテルを味わえる「茶BAR」等があり、うれしの茶の魅力を存分に味わうことができる。同年7月には、西九州新幹線嬉野温泉駅前、道の駅「うれしの まるく」に隣接し「フェアフィールド・バイ・マリオット・佐賀嬉野温泉」が開業。同じく7月、「お宿 紅舎宮(くじゃく)」の姉妹宿として「離れ 壺中(こちゅう)」(3棟)が温泉街にオープン。10月には、旅館「吉田屋」による「宿屋うちろじ」が温泉街にオープンした。

長崎県長崎市では、2024年1月に「長崎マリオットホテル」が開業した。「マリオット」ブランドは、九州初進出で、国内で9軒目となる。運営はJR九州グループであるJR九州ホテルマネジメントがマリオット・インターナショナルと提携して行う。JR長崎駅ビル増床部分「アミュプラザ長崎」新館の7階から13階を専有し、207室の客室(ゲストルーム179室、スイートルーム28室)を備える。中でも「インペリアルスイート」の広さは182㎡、バルコニーを含めると242㎡になる。また、2024年2月には、「FAV LUX 長崎」が開業。「FAV LUX」は、霞ヶ関キャピタルが展開する、国内外の家族・グループ旅行に対応した多人数での宿泊が可能なFAV HOTELの新ブランドで、「FAV LUX 長崎」が1軒目となる。「FAV LUX」は、FAV HOTELよりハイエンドとしており、スイートルームや、最大8名で利用できるプライベートサウナ、スイートルーム宿泊者専用のルーフトップを備えている。

熊本県熊本市では、2023年4月に「OMO5熊本 by 星野リゾート」が開業した。客室数は160室で、熊本城が一望できるテラスを有する。「OMO」は交通利便性が高い都市部に位置し、ホテルを拠点にまち歩きを楽しむ旅を想定した宿泊施設であり、ホテルから徒歩圏内の町を紹介する「ご近所マップ」や「ご近所アクティビティ」を用意している。熊本県天草市では、同市内で「ホテル竜宮」、「天草 天空の船」を運営する竜宮により、同年6月に「天ノ寂(あまのじゃく)」が開業した。全11室がスイート仕様のスモールラグジュアリーホテルで、海に面した露天風呂や半露天風呂を客室に配置している。

大分県由布市では、2023年6月にオーベルジュ「ENOWA YUFUIN」が開業した。ホテル棟とヴィラ10棟の全19室で、ヴィラにはプライベートプールと露天風呂を備えている。

宮崎県宮崎市では、2024年2月に「プリンス スマート イン 宮崎」が開業した。「プリンス スマート イン」は、西武・プリンスホテルズワールドワイドが展開する宿泊特化型ホテルで、宮崎市内の都市機能の中心となっている場所に位置し、163室の客室を有する。

鹿児島県鹿児島市では、2023年5月に「シェラトン鹿児島」が開業した。鹿児島初の外資系シティホテルで、オーナーは南国殖産が設立した南国ホテルズ、運営はマリオット・インターナショナルが行う。鹿児島市中心地に所在する複合施設「キラメキテラス」内に立地し、客室228室、レストランや会議室、屋外イベントスペース、フィットネスセンター等を備えている。鹿児島県垂水市では、2023年4月に「フェアフィールド・バイ・マリオット・鹿児島たるみず桜島」が開業。鹿児島県与論町ではリゾートホテル「プリシアリゾート ヨロン」が2023年6月にリニューアルし、専用プールが併設された一日1組限定のヴィラが新たに誕生した。

**●ふくおか修学旅行バス新設(福岡県)**

公益財団法人福岡観光コンベンションビューローは、2023年9月より、福岡市内の宿泊施設に1泊以上宿泊する修学旅行で、修学旅行のプログラムの一環として「福岡市地下鉄1日乗車券」を購入した生徒・引率者を対象に福岡市地下鉄沿線の観光施設等で使用できる利用券を付与する「ふくおか修学旅行バス」を新設した。

**●日田彦山線BRTの開業(福岡県、大分県)**

平成29年7月九州北部豪雨により被災していた日田彦山線添田駅から夜明・日田駅間が、日田彦山線BRT(BRTひこほしライン)として2023年8月28日に開業した。日田彦山線は福岡県北九州市の城野駅から大分県日田市の夜明駅を結ぶJR九州の鉄道路線であるが、九州北部豪雨により添田駅から夜明駅間が不通となっていた。沿線自治体は鉄道での復旧を要請していたが、利用客が少ない区間であることから、JR九州は復旧にあたり沿線自治体との費用分担を求めている。2018年から2020年にかけて、福岡県、大分県、沿線自治体、JR九州により検討された結果、線路跡の専用道(彦山駅～宝珠山駅)と一般道をバスでつなげるBRT方式で開業することとなった。

**●長崎県長崎市、宿泊税の新設**

長崎市は、2023年4月1日より、長崎市内に所在する宿泊施設(民泊含む)に宿泊料金を支払って滞在する宿泊者を対象として宿泊税の課税を開始した。九州では、福岡県、福岡市、北九州市に続き4例目となる。税率は、一人1泊につき宿泊料金が1万円未満で100円、1万円以上2万円未満で200円、2万円以上で500円を設定している。修学旅行やその他学校行事の参加者・引率者は免税対象となる。宿泊税の用途は「訪問客への還元」を方針とし、利便性・満足度・再訪意欲の向上につながる「サービス向上・消費拡大」、「情報提供」、「受け入れ環境整備」、「資源磨き」、「緊急時の対応等」の順番で活用している。

**●南阿蘇鉄道の全線再開(熊本県)**

2023年7月15日に熊本地震で被災し区間運休(立野～中松間)となっていた南阿蘇鉄道が全線運転再開した。一日2便、JR豊肥本線肥後大津駅に乗り入れを行っており、熊本駅や阿蘇くまもと空港から阿蘇へのアクセスが可能となった。

南阿蘇鉄道の復旧にあたっては、大規模災害復興法で定義する特定大規模災害で被災した鉄道事業者に対して費用の大半を補助する、特定大規模災害等鉄道施設災害復旧事業費補助金を活用することで、国と沿線自治体が復旧に必要な費用を折半し、鉄道事業者の負担が免除された。この制度を活用するにあたり、経営構造の改革が必要であり、上下分離方式を導入し、熊本県、南阿蘇村、高森町により設立された一般社団法人南阿蘇鉄道管理機構が維持管理部分を運営することで持続可能な公共交通網を構築することとした。

**●100年後も人の営みが豊かな浦を残す観光プロジェクト開始(大分県)**

大分県佐伯市は、2023年3月に「オーガニックビレッジ宣言」を行った。オーガニックビレッジとは、農林水産省が取り組んでいるもので、有機農業の生産から消費まで、生産者だけでなく、事業者や地域内外の住民を巻き込んだ地域ぐるみの取り組みを進める市町村のことを指す。佐伯市は、将来にわたり持続可能なまちをつくるために「経済・社会・環境」の3つの側面に配慮し、そのすべてが調和した取り組みを目指し、2020年に「さいきオーガニック憲章」を定め、「さいきオーガニックシティ」の実現を目指している。一般社団法人佐伯市観光協会は、2023年よりその構想を観光の観点から推進し、100年後も人の営みが豊かな浦を残すためのプロジェクトとして「浦100」を開始した。「100年後も人の営みが豊かな浦を残すための100の観光アクション」を生み出すことを目標としており、山・川・海の恵みを体感できるような観光プログラムの造成に取り組む。2023年度は、2024年4月から6月の「福岡・大分デスティネーションキャンペーン」に向けて、10事業者と観光プログラムを造成することを目標とした。

**●「焼酎ツーリズムかごしま」が初開催(鹿児島県)**

2023年2月25日、鹿児島県いちき串木野市と日置市で「焼酎ツーリズムかごしま2023」が開催された。これは、参加している焼酎蔵6蔵をバスで巡り、杜氏と対話しながらテイastingができ、焼酎蔵のある地域を散策し、地域の文化等を体感できるイベントで2023年度が初開催となった。2023年は定員200名で、参加者は周遊バスの乗り放題チケットやオリジナルグラス、グラスホルダー等が特典として含まれたチケットを事前に購入し参加した。2024年2月には第2回が開催され、参加焼酎蔵は9蔵に増加した。

**●JR鹿児島中央駅にJR鹿児島中央ビルが開業(鹿児島県)**

2023年4月、JR鹿児島中央駅西口に複合ビル「JR鹿児島中央ビル」が開業した。1～3階は既存店舗のビックカメラ、「ぐるめ横丁」、高架下店舗を含む商業ゾーン「AMU WE」(アミューイー)で、4～10階がオフィスゾーンで構成されている。今後は、II期開発として、隣接地に住居開発等が進められる予定である。

(一般社団法人九州観光機構 野間恵子)